

「石垣島・白保のサンゴ礁文化継承活動を学ぶ」

担当教員 梶 裕史

コース概要

日程 2019年3月7日～3月11日 場所 沖縄県石垣島白保集落 参加人数 16名

コースのねらい

「サンゴ礁文化」とは何か、それを継承する意義を学ぶとともに、住民主体で持続的な地域づくりに取り組んでいる白保集落で開始された、手づくりの「スタディツアー」に参加して実感的に体験学習します。

内容

日本最南の沖縄県八重山諸島・石垣島にある白保集落は、かつては「魚湧く海」と呼ばれた豊かなサンゴ礁の海に面して、自然の恵みを持続的に暮らしに活かす「半農半漁」の自給自足的な生活文化を築いてきた農村です。この白保は、海の埋め立てによる新空港建設計画をめぐる長年の苦難を乗り越え、21世紀から、外部自然保護団体WWFが設立した組織「しらほサンゴ村」と住民有志との協働により、サンゴ礁文化の継承による持続的な地域づくりを始めました。その活動は現在第二段階に入り、NPO夏花という新たな住民組織に受け継がれています。このNPOが収入源の一つとして始めたのが、地域のとりくみを体験実習するプログラムを豊かに含む「スタディツアー」です。今回はあいにく天候にあまり恵まれず、赤土流出防止グリーンベルト作りなど、中止となったプログラムもありましたが、毎年のつきあいの積み重ねの成果で、代替プログラムも工夫して下さり、恒例の夕食交流会も含めて、「人」が地域の一番の財産であり、「人との交流」が最大の魅力であると実感する5日間になりました。



名物オバアによる、交流会用踊り練習



サンゴ礁シュノーケリング



機織り体験

【プログラム概要】

沖縄離島の「原風景」が残る集落散策（白保公民館指定文化財めぐり）／方言自己紹介・伝統芸能練習（交流会用）／サンゴ礁シュノーケリング／石垣島見学（マイクロバス）／機織り体験／ビーチクリーニングと漂着ゴミ講習／夕食交流会／日曜市見学／月桃加工施設作業体験／民泊稼業体験 など

一見、海と離れてみえるプログラムも少なくない印象があると思います。全て、海と陸上の暮らしぶりとの密接なつながり—白保住民がエコな農業やライフスタイルを築かないと、「魚湧く海」「命継ぎの海」の保全は難しいこと—を知るねらいがあります。サンゴ礁を健康な状態に保っていくためには、地域をあげての陸上のとりくみが不可欠であり、しかもその活動がボランティアではなく収益を伴うことが、住民参加を促進するために非常に大切です。よって有料のスタディツアーパーに参加することは、ささやかながら白保の持続的な地域づくりに貢献することにもつながるのです。

このスタディツアーパーのハイライトは、意識の高いNPO理事クラスの家庭に1泊分宿し、稼業を体験するホームステイでしょう。体験者は、単に「自然」にふれるだけではなく、伝統的な生活文化の生きた表現者、すなわち自然に寄り添って生きる力を豊かに持つ人々と親しく触れ合えることこそ、自然と共生してきた文化が残る場所を訪問する最大の魅力であること—「人」が地域の最も尊い資源であることに気付けるはずです。

そして、一度きりの旅ではなく、リピーターとして、「白保ファン」になって再訪してくれ、地域活動のサポーターになってくれるようなゲストを増やすこと、これがNPOのめざす「交流」なのです。私達はささやかながら白保サポーターの一員となるべく、継続的な参加に加えて、プログラム作りにも協力していきたいと思っています。



白保日曜市を見学、取材



稼業体験（野菜農家）



稼業体験（畜産 牛舎にて）

学習を終えて

「日常生活に活かせる尊い体験に」 1年 船見かなゑ

間違いなく大学生活のターニングポイントになるだろう充実した滞在でした。民泊先の美里家では農業の苦労を学びつつも、自分達で収穫した生りものを自ら料理して頂く暮らしの尊さや、地域の絆の豊かさを、楽しく実体験させて頂きました。どっさり頂いた野菜を、帰ってから自分で下手ながらも調理してみたり、部活動のマネージャーで（白保の方々のように）明るく笑顔でふるまうよう心がけたりと、白保のライフスタイルに触れたおかげで自分の生活・価値観が変わりました。白保のお祭りがある時に、またぜひ訪ねたいです。

白保のみなさん、フクラハユー（=有難うございました）。

「学生の皆さんと新たな村づくりの視点を探り合えるのも楽しみ」 宮良操さん（民泊先のお一人）

法政大学の学生達との出会いは、農業を営む我が家に於いては家業の畜産業を通して石垣島や、白保集落、そして家族を知る貴重な出会いです。畜産業の基本、仔牛生産、繁殖、肥育などの内容は勿論、島の他の産業や地域の営み、文化や祭り、コミュニティや地域づくり全般を体得してもらいました。観光経済に沸く島社会の現実や課題、島の外から見える石垣島、島の中から見る石垣島、その課題に取り組む白保村の取り組みを、学生の皆さんと情報を共有し、互いの相違点の中から新たな村づくりへの視点を探り合えるのも楽しみのひとつです。